

ATC 施設利用・共同開発研究 成果報告書

国立天文台先端技術センター センター長 殿
下記のとおり施設利用の成果を報告します。

2020 年 11 月 27 日

ふりがな： 代表者氏名： 宮田隆志	③所属機関，部局： 東京大学理学系研究科
研究課題名：地上大型望遠鏡用中間赤外線観測装置 MIMIZUKU の開発	
利用期間： 2019 年 4 月 1 日 ～ 2020 年 3 月 31 日	
利用者リスト 宮田隆志、上塚貴史、浅野健太郎、大澤亮（東大天文センター）	
研究開発の成果（ATC 施設利用との関連を具体的に記述してください。） 本課題では中間赤外線装置 MIMIZUKU の開発を進めている。今年度は、2018 年にすばる望遠鏡で行った観測をうけ、装置を日本に返送した。国立天文台スタッフの協力もあり、装置を無事に三鷹の天文学教育研究センターに返送することができた。その後実験を進める予定であったが、新型 j コロナウイルスの蔓延などもあり、ATC を利用するような作業は進められず、2020 年度へと持ち越しとなっている。	
施設利用が謝辞等に記された学術論文など（資料を添付してください。） 特になし	
先端技術センターの利用設備・実験室等の利用した物品を具体的に記入してください。マシンショップへ依頼したリスト・利用した測定器・CAD 等について記入してください。） 本年は上のような事情だったので、特に ATC の設備・物品は利用しませんでした。	
先端技術センターの施設への要望等ありましたら、記入してください。 引き続きよろしくお願いいたします。	